

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104067		
法人名	医療法人 星の里会		
事業所名	グループホーム パラディース		
所在地	下関市菊川町下岡枝164-1		
自己評価作成日	平成30年 4月 26日	評価結果市町受理日	平成30年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年5月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者主体で当たり前の生活を継続している中で、ここでの生活の役割をそれぞれ持って頂き、生きがいに繋げている。職員が待つ姿勢で寄り添っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の文化産業祭や敬老会、ボランティア祭りに出かけられたり、道の駅でのフリーマーケットの出店、菊川ふれあい会館での各種行事や教室(しめ縄づくり、生け花)へ参加されているなど、利用者が地域の人との交流を楽しむ機会をつくっておられます。職員は、利用者の楽しみごとや得意なことを把握されて、活躍できる場面づくりや楽しむ機会を設けられたり、日常のかかわりの中で利用者に寄り添われて、思いや意向の把握に努めておられます。管理者は月1回の職員会議や毎日の申し送り時の他、日常業務の中でも随時、職員の意見や提案を聞いておられ、誤薬防止対策や個人的事情による勤務体制の調整など、職員の意見や提案を反映しておられます。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.「人間の尊厳を最大限尊重した介護サービスの提供」2.「ゆったりした時間の提供」3.「利用者も職員も笑顔になる」という事業所独自の介護理念を職員全員が常に意識をして理念の実践につなげている。ゆったりした時間の提供」「利用者も職員も笑顔になる」という事業所独自の介護理念を職員全員が常に意識し理念の実現につなげ実践している。	法人の理念を基に、事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は、職員会議や申し送り時に理念の内容について話し合い、日常業務の中で、常に意識して確認し、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	菊川ふれあい会館(多目的会館)で行われるしめ縄作り、はり絵教室、生け花教室に参加をしたり、年2回行われるお大師さんにお参りし、地域の方と交流を図っている。入居者の日常の買い物と一緒に職員が同行し、支払を行ったりしている。近隣の方へは行事の案内にパンフレットを持参し、交流を深めるようにしている。	自治会に加入しており、市広報誌によって地域の情報を得ている。利用者と職員は一緒に年1回地域の夏祭り後の清掃活動に参加している。利用者は、地域の文化産業祭、敬老会、ボランティア祭り、お大師まいりに参加している。道の駅でのフリーマーケットの出店、菊川ふれあい会館の行事(響感ピアノ演奏)や教室(しめ縄づくり、生花)に利用者は参加して、地域の人との交流を楽しんでいる。法人主催の文化祭や運動会、夏祭りに家族や地域の人々の来訪がある他、ボランティア(コーラス、はり絵等)の来訪があり、地域の人と交流している。保育園児の来訪や中学生の体験学習の受け入れをしている。スーパーマーケットでの買い物時や散歩時に顔馴染みの人と挨拶を交わしたり、地域の人からの差し入れがあるなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活で関わる地域の方(店員さん、消防署や多目的会館の職員の方など)、ボランティアで来所された方、運営推進会議に参加の方との意見交換や実際に触れ合って頂き、お互いの理解を深めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は、職員会議で評価の意見を説明し理解をしたうえで、全職員で自己評価に取り組んでいる。日々の業務で地域の方との関わりや入居者の課題について常に話し合いサービスの改善に取り組んでいる。	管理者は職員会議時に評価の意義を説明し、自己評価をするための書類に全職員が書き込んでいる。それをもとに職員数名でまとめ、全職員で話し合い、最後に管理者と職員がまとめている。職員は課題を見つけ地域住民との関わり方などについて話し合っている他、応急手当や初期対応の実践力を身につけるために、災害時の対応マニュアルを作成し、全職員で実技訓練を実施しているなど、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活や活動状況・ヒヤリハット・事故報告・行事予定を報告している。そこで頂いた意見や助言は職員会議で話し合い、サービスの向上に活かせるようにしている。	会議は年6回開催し、入居状況、活動予定と報告、ヒヤリハット報告、避難訓練報告等を議題として意見交換をしている。メンバーからの与薬についての意見から、全職員で話し合い、誤薬の事故を防止する取り組みを始めているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新等、ご本人と職員が一緒に行き、手続きを自身で行えるようにしている。実情について話し合い、町の行事等には席の確保等協力関係を築いている。	市担当者とは、運営推進会議時に情報交換をしている他、直接出向いて助言を得たり、ファックスや電話で相談しているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に助言を得ている他、散歩時に立ち寄り利用者の個別相談や他のグループホームの情報を得たり、模擬徘徊訓練に参加しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、マニュアルを読んだり、職員間で話し合うことで、理解・実践に取り組んでいる。玄関の施錠は防犯の為、夜間のみ行っている。	職員は内部研修で学び、理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。外出したい利用者には、職員が一緒に出かけたり、言葉かけをして気分転換の工夫をしている。スピーチロックに気づいたときは、管理者や職員同士で注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や日々の介護を通じ学び、スピーチロック等、職員間でその場で注意をし合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や勉強会を通じて学んでいる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全職員が説明出来るように、まずは職員の理解から始め、ご家族には書面を通じて説明を行っている。疑問点があれば、それに対して説明をして理解をして頂き同意を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けて、意見や要望があれば管理者や職員間で共有している。	苦情や相談の受付体制や処理手続きについて、契約時に本人や家族に説明している。面会時や運営推進会議時、行事の参加時、事業所だより送付時等で、家族からの意見や要望を聞いている。面会時は心地よく過ごせるようお茶を出すなど、意見や要望が出やすい雰囲気づくりをしている。ケアへの要望はその都度、対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞いている。	月1回の職員会議や申し送り時等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。誤薬防止対策や休憩時間の確保、個人的事情による勤務体制の調整などの意見や要望があり反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的には実例に基づき実技指導を行ったり、ケアに対する基本的な考え方を話合う機会を設けている。勤務しながら学べるように支援・学習している。職員全員が外部研修に参加できる環境を整えるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階や希望に応じて参加の機会を提供している。年5回業務の一環として受講し、受講者は復命し資料を回覧して職員全員が共有している。内部研修(月1回)は、身体拘束、虐待、熱中症、やけど、誤嚥性肺炎、ノロウイルス、インフルエンザ、応急処置、入浴、接遇、介護保険、5つの基本的ケアをテーマとし、管理者が講師となって実施している。新任研修は、日々の業務の中で先輩職員が指導している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に積極的に参加できる環境にあり、参加した研修を通じて交流を深め、情報交換や訪問に繋げ、良い点や参加になる点は積極的に取り組むようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の目を見て話し、職員と入居者の関係というよりは、一人の人間として真摯に向かい、しっかりと訴えや思いを受け止め、必要であれば寄り添い、安心に過ごせるように信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、不安や希望、疑問をしっかりと聞き安心に結びつけられる要素を見つけ、納得いかない事柄については管理者との話し合いの場を設けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の状況と家族の思いに応じて法人全体で支援の対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家」「家庭」という雰囲気を大切に、まず入居者主体を基本とし、出来ない所を支援する為に職員が寄り添うようにしている。固定観念は持たずに何か出来ることを探すようにし、生活の場に参加してもらうようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や支払いに来所された時には、ご本人の近況を報告すると共に、ご家族からのみではなく施設側からも相談・要望を言い合える関係作りに努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の情報があれば、可能な限り関係の継続を支援している。行きつけの美容院やスーパーでの買い物や知人や友人の面会・宿泊・法事・墓参り・外食など、家族の協力を得ている。	家族の面会や親戚の人、知人、元職場の友人の来訪がある他、電話やはがきのやり取りの支援をしている。行きつけのスーパーマーケットでの買い物や家族の協力を得ての商店での買い物、馴染みの理容院の利用、外出、外食、外泊、法事、墓参りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個人の特性を把握して、気の合う同士を結び付け、お互いに声を掛けあうようにしてもらっている。入居者主体の生活をごく自然な形で作り合える事を考えて支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、関連施設や病院へ移動した方がいる。合同行事等で顔を合わせる時は、利用者同士の交流の場を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の本人の行動や言葉を記録し、その中から思いや意向を把握するように努めている。	「アセスメントシート」を活用している他、日常のかかわりの中での、利用者の行動や様子を「生活状況記録」に記載して「浴衣が着たい」、ピアノが弾ける人、「歌を歌う事が好き」などの思いや意向の把握に努めている。時に不穏な行動が見られる人について、その時の本人の気持ちを職員間で話し合うなど、常に利用者の気持ちに寄り添うように努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より生活歴等の情報収集に努め、現場で活かせるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の出来事、状況等の記録を基に申し送りを行い、職員間で情報を共有している。出来ないことだと思ひ込みをせずに、様々なアプローチを試みている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で入居者の状況を話し合い、課題を検討している。ご家族や関わる方達との意見を反映させている。	月1回の職員会議で計画作成担当者が中心となって、本人や家族の思いや意向、主治医や看護師の意見を参考にして職員間で話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に計画の見直しをしている。利用者の状況や家族の要望が変化した場合には、その都度見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事、普段とは違った事、言葉などを記録し、職員間で共有し、検討課題があれば話し合っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の行事や催し物では、なるべく全ての利用者に参加して頂くようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段の会話から知り得たニーズがあれば、本人や家族と相談し可能な限り、希望に添えるように支援をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診以外は、本人及び家族の希望を必ず聞くようにし、受診後は必ず報告するようになっている。家族送迎の受診時は日頃の様子を説明し、メモを渡している。受診後の報告もしてもらっている。	本人や家族の意向を聞き、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療と月1回の受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得ており、受診時は本人の状況をメモして医師に情報提供している。受診結果は家族へ電話や面会時に知らせている。職員間は「業務日誌」と「訪問診療ファイル」に記入して共有している。緊急時は協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的に変化や異常があれば、隣接している小規模多機能型居宅介護の看護師に相談をしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に情報提供し、退院時は入院時の情報をもらっている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には、本人や家族の思いを尊重しながら、主治医と家族が話し合った後、主治医の指示に従っているが地域の関係者と共にチームで支援に取り組めてはいない。	契約時に事業所ができる対応について、本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医の指示を受けながら連携して、移設の含めて方針を決め、共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	応急手当や初期対応の勉強会や訓練を定期的に行っている。何か入居者に急変があった場合は、応急手当や緊急時の初期対応を確認している。	事例が起きた場合は、その場の職員で話し合い、「事故報告書」または「ヒヤリハット報告書」に発生の状況、対応等を記録し、申し送り時に説明して、回覧して職員全員が共有している。さらに1月後に対処策について評価や検討している。年2回、消防署の協力を得て避難訓練に合わせて救命救急講習を実施している他、内部研修(熱中症、やけど、ノロウイルス、インフルエンザ、応急処置など)を実施したり、災害時対応マニュアルをつくり、嘔吐や意識喪失に対する実技訓練をしているが、全職員が実践力を身につけるまでに至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯・夜勤帯を想定し、地域の方に合同訓練の声掛けをし、案内状のパンフレット配布、特別ニュースとして、訓練の結果、情報を提供している	拠点事業所合同で年2回消防署の協力を得て、消火・通報・避難・誘導訓練を利用者、地域から自治会長やスーパーマーケットの店長の参加を得て実施している。事業所のみで年10回、利用者も参加して避難・通報訓練を実施している。スーパーマーケットに災害時避難場所の受け入れ先として承諾を得ているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初心を忘れず、入居者は人生の先輩という思いを常に持ち、入居者に対して馴合いにならないように意識し、不適切な言葉や対応があれば、職員間で注意し合い、管理者がその都度指導をしている。	職員は内部研修で学び、利用者一人ひとりに敬意をもって接し、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応にはその都度、管理者が指導したり職員同士で注意し合っている。書類等個人情報については守秘義務を遵守し責任ある取り扱いをしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	入居者本位の生活支援という基本を忘れることなく、どうしたいのか、何をしたいのかを「どうしましょうか？」と選択の幅を広げて聞き、自己決定出来るように努めている。言葉の出にくい方には、選択出来るようにいくつかの事項を聞くようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりを理解し、「できる」「やってみよう」気持ちを誘発するような声掛けをしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の衣服は、職員と一緒に選ぶようにしている。女性には、行事参加時や外出時に化粧を勧め、髪型を整えたり、アクセサリーを付けたり、夏祭りでは浴衣を着りしている。男性は、入浴や起床時に髭剃りを準備している。男女共に、おしゃれを楽しんでもらうように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は和食かパン食を、昼食・夕食は3～5種類の中から入居者が希望のものを選んでいる。食事準備、盛付、配膳、後片づけを職員と一緒にしている。無理なく食事が出来るように食事形態、椅子の座面の高さの調整、味付けの工夫をしている。	三食ともご飯と汁物は事業所でつくり、副食は法人の配食を利用している。配食メニューの中から利用者一人ひとりが好みの献立を選択できるようにして提供している。利用者の状況に応じて形状の工夫をしている。利用者は職員と一緒に、米の計量、洗米、材料を切る、味噌汁をつくる、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなどできることをしている。利用者と職員は、同じ食卓で会話を楽しみながら食事をしている。季節の行事食(おせち、恵方巻、ひな祭り、クリスマスなど)やおやつづくり(水ようかん、コーヒージェリー、コーヒゼンざい、フルーツコンポート、チョコフォンデュ、アップルパイ、よもぎ団子など)、弁当持参の花見、年3回の外食、創作料理をみんなでつくったり、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事や水分量を記録し変化を観察している。変化のある方は主治医に報告する。嚥下に問題のある方はトロミ剤を使用している。お茶での水分補給が難しい方を含め、個人の好みの飲み物を、又、食事量が少ない方には栄養補助飲料(メイバランス)等で対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯を外してもらい歯磨き、うがいを施行してもらっている。必要な方は、舌ブラシを使用してもらう。夜間は、義歯、歯ブラシ、コップを洗浄、消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記録して、タイミングを見て、トイレ誘導、声掛けをしている。夜間や外出時、体調の悪い時など以外は、布パンツを使用し、必要ならその方に適切なインナーシートやパッドを使用している。	排泄表を活用し、パターンを把握して、プライバシーに配慮した声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は、起床時に乳酸菌飲料を飲んでもらい、朝食時にヨーグルトを摂取し、水分は多めに飲んでもらうように声掛けや働きかけ、適度な運動を勧めている。便秘が改善されない方は、医師や薬剤師に相談し指示を仰いでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく寝る前希望という事で、16:00～21:30の間で一人ずつの希望を聞いて入浴している。その日の気持ち、状態によっては、シャワー浴、手足浴、清拭を行っている。季節によってはゆずや花や入浴剤を入れて楽しんでもらうように工夫している。	入浴は毎日16時から21時30分の間可能で、利用者が希望する時間に入浴できるように支援している。体調に応じて清拭、手足浴、シャワー浴で対応し、好みの入浴剤や柚子湯、バラ、紫陽花の花、ミントなどを入れて入浴を楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせ、室温や湿度、ベッド周りの家具やシルバーカーの配置を考え、日中の活動も含め安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と処方箋を一緒に保管をして確認出来るようにしている。服薬の確認は、薬をセットする人、渡す人、チェックをして記録する人3人の職員が携わっている。服薬時は、声に出して確認し合っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、役割を持って頂く。他者のお世話、ご本人主役の誕生会、講演会参加、買い物、出納係、得意な趣味(文化サークルなど参加しての作品作り)等、楽しみや気分転換の支援をしている。	フリーマーケット出店の際の会計や値切り対応とポスターづくり、拭き掃除、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、味噌汁づくり、料理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、食器拭き、絵手紙、折り紙、トランプ、生花、絵手紙、雑巾縫い、ボタンつけ、ゴム通し、メモ紙づくり、封筒づくり、しめ縄づくり、テーブルボール、風船バレー、体操、おやつづくり、創作料理づくり、季節の行事(初詣、節分、豆まき、バレンタイン、ひな祭り、花見、七夕、花火大会、夏祭りでの浴衣着用、敬老会、文化祭、運動会、クリスマス会、餅つきなど)参加、地域の行事(敬老会、文化産業祭、ボランティア祭り、夏祭り、芸能祭り)参加、菊川ふれあい会館行事(響感ピアノ演奏、しめ縄・生花教室)参加など、一人ひとりが活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩を兼ねて、外出するようにしている。(行事等のお知らせ・季節の花見等)	日常的な近隣の散歩、2日に1回のスーパーマーケットへの買い物、芸能祭り、夏祭り、文化産業祭、ボランティア祭りなどの地区の催し物、初詣、花見(梅、桜、菖蒲、紫陽花)、お大師参り、東行庵見学、道の駅、家族の協力を得ての外出、外泊、法事、墓参りなど、利用者の希望に沿って戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望の品物を職員と一緒に買い物に行き、レジでは自分で代金を払うように支援し、出来る方は、出納帳との照合をして頂いている。入居者主体でフリーマーケットを運営している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時に、電話を掛けている。本人に品物が届いた時には、受取りのお礼の電話を掛けて頂くように声を掛けている。手紙は、最寄りの郵便局で、本人がハガキを購入し、投函出来るまで支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、自由に使用している。施設内の花は、入居者自ら生け、季節ごとの飾りを作成したりしている。湿度・温度計を確認し、エアコン、加湿器の使用や換気等を行っている。	2階の食堂兼リビングは広い窓からの採光で明るい。周囲の展望が開け、遠くの山の緑や室内に飾ってある季節の花から四季を感じることができる。窓際のソファは利用者が思い思いにくつろぐことができる居場所となっている。温度、湿度、換気に留意し居心地よく過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを点在させて、それぞれ自由に過ごしてもらえるようにしている。廊下にもソファを設置し、落ち着いた空間を作っている。状況に応じて、テーブルや椅子を移動している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人が使い慣れた物(食器・写真等)を持参して頂くようお願いをしている。チェストの上には、見慣れた自分の衣服を置いてもらっている。	利用者は居室に、毛布、座布団、三段のカゴなどを持ち込み、はがき、色紙などを飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の物は、ほとんど自由に使ってもらっている。エレベーターや階段の使用も自由なので、職員が気が付かない間に移動しないように、注意しながら支援している。「トイレ」は、分かりやすくするために、「トイレ」と大きく表記している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームパラディース

作成日：平成 30 年 12 月 2 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	○災害対策 地域との協力体制の構築	近隣の企業や住民に定期的な計画を提案する。 入居者の状態を把握して頂けるように、日頃からの関係を結ぶ。 実践に向けての人員を確保する。	参加しやすい避難訓練や救急救命講習を計画し、参加の案内を入居者様と一緒に配布する。 入居者様を知って頂くためにも、日頃から、挨拶や交流できる場面を作っていく事を継続、又は発展させていく。自治会長様と災害時避難訓練を計画中。	1年
2	35	○事故防止の取り組みや事故発生の備え 全職員で、応急手当や初期対応の実践力を身につける	全職員が応急手当、初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続と共に、職員一人一人の安全安心に対する意識改革をする。	定期的な演習の継続と一つずつの丁寧な勉強会を開催する。職員として安心安全に対する考え方をその都度勉強していく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。